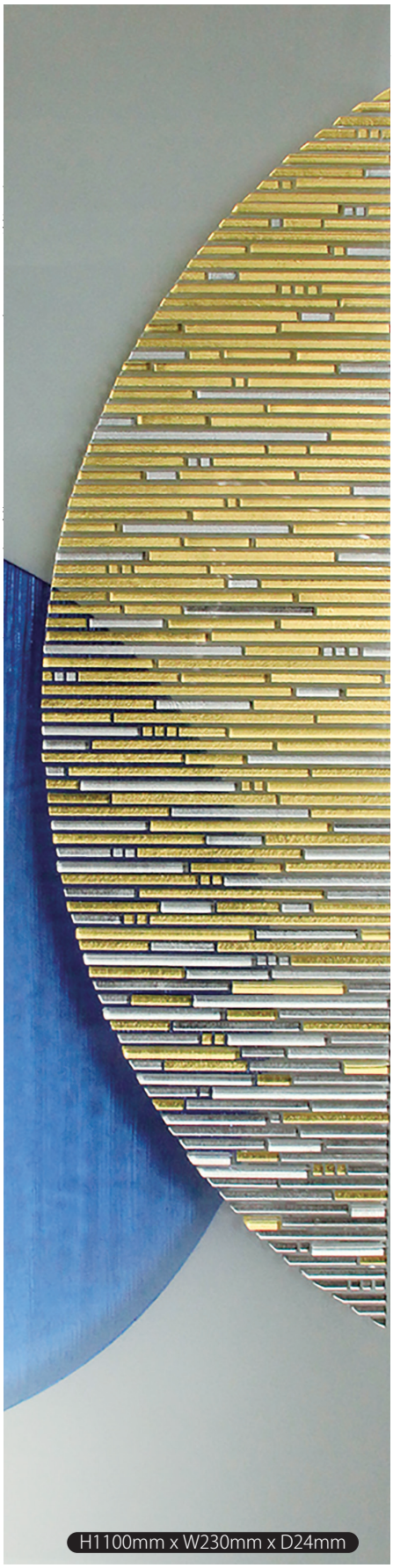
KAGAMI GLASS WORKS
#09/12
2020-7

各務ガラス工房　各務ひとみ　〒360-0031　埼玉県熊谷市末広 2-7　TEL&FAX　048-522-6192　info@kagami-glass.com

作品紹介　天(あめ)の海に雲の波立ち月の舟星の林に漕(こ)ぎ隠(かく)る見ゆ

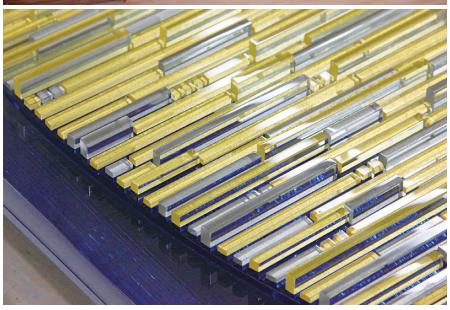


月をモチーフに抽象的なイメージでというのが施主様からのリクエストでした（埼玉県のＳ邸リビングの壁面パネル、2018 年制作）。いつもようにあれこれ考えを巡らして、これだ！と思いついたのが、万葉集の柿本人麻呂の歌です。星の林に見え隠れする月の舟、背景に七夕伝説もうかがわせ、メルヘンチックでロマンチック。

大岡信さんの『私の万葉集』では「天を海に、雲をその海に立つ波にたとえ、三日月の舟がそこを滑って星の林に漕ぎ隠れてゆくさまを詠んでいます。日本の古代詩歌で、夜の天空というものをこれほど大らかな把握の叙景歌として描写した作品は、他に見出しえません」と解説されていました。ついでにピーター・マクミランさんの英訳も見つけたので、ご紹介しておきます。

Cloud waves rise
in the sea of heaven.
The moon is a boat
that rows till it hides
in a forest of stars.

これでタイトルは決まりました。**「月の舟」**。とは言っても、人麿の歌を“絵画化”するわけではありません。



歌はいわば足がかりで、この歌の持つ情緒、雰囲気、気分をもとにして考えを発展させていきます。清涼感があって、気品高いデザインというのがめざした方向です。

技法としては、金箔やプラチナ箔をサンドイッチしたガラスバーを大量につくり、切断と研磨によって長さと厚みを調整し、光と影のグラデーションが生まれるよう変化をつけながらパーツを並べていきます。

わが恩師はなかなか褒めてくれないのですが、この作品は「いいね！」と言っていただけました。

各務氏のルーツ

そのルーツを遡れるだけ遡ると『古事記』に行き当たります。天岩戸に隠れたアマテラスを連れ出すために神々はさまざまな準備を行い、そのひとつに「伊斯許理度賣命(いしこりどめのみこと)におほせて鏡を作らしめ」という一節があり、この神が鏡作部の祖と言われています（三種の神器の八咫鏡(やたのかがみ)を作ったのもこのお方）。鏡作部とは、錦織部・土師部・犬養部などと同じ特殊技能集団。で、鏡作部は加賀美とか加賀見と称したようですが、いきなり戦国時代に飛んで、加賀美正光という武将が神託を受け、名字を「各務」に改めたと伝えられています。どう読んでも「かがみ」とは読めませんが、神託じゃ文句もいえません。